

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	良く なっている やや良く なっている	-	-	-
		スーパー（店長）	販売量の動き	・年末の正月用商材の動きが少し良くなり、販売量も前年比96%とわずかだが上向きになってきた。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・クリスマス、年末など、派手なイベントにお金をかける傾向が感じられるようになってきた。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・年末に向けて工事現場作業者の来店が増加している。
		衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・今年は雪が早く降ったことで、年末商戦が良かった。前半は総選挙の影響であまり良くなかったが、後半は客の消費動向が単価の高い商材を中心に動いた。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・地上デジタル放送関連のテレビ需要が落ち着いたことによる反動はまだあるものの、LED照明、電球、冷蔵庫等の省エネ関連商品の需要がおう盛で、単価は低いが売上に貢献している。
		家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・地上デジタル放送への完全移行後、低迷が続いていたテレビの販売が、約1年半ぶりに前年を上回るようになり、全体としては微増ながらも回復してきた。
		一般レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・来客数は前年並みだが客単価が前年比106%と高くなっている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・週末ごとに需要を喚起する大型のイベント、大会が開催され、来客数、客単価を押し上げる結果となった。
		タクシー運転手	来客数の動き	・季節要因も含まれるが、今月に入って全体的な受注の状況がやや上向き傾向となっている。ただし、まだ予断の許せるような状況ではない。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・売上が前年比で3%以上の増加となっており、今後も売上の増加を期待できる雰囲気がある。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・消費税増税法案成立の影響があり、駆け込み需要が徐々に生じてきている。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・販売事務所に来るほとんどの客が分譲マンションの購入に対して積極的であり、見学のみ客は少ない。来訪前に購入する意思を固めている客も多く、営業に要する時間が少ない。	
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・12月は防寒衣料のピークの月だが、例年より寒いこともあり、フリー客、一見客がダウンコート等を買う様子がみられる。一方、顧客やOLは買い控えをしており、単価の高い商材もあまり売れていない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・総選挙により政権が変わったが、まだ実際の客の気持ちとしては、景気が良くなっているのか、悪くなっているのか判断できないようである。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・今月に入り、強い寒波と積雪の影響で客足は鈍かったが、下旬以降は、年末大売出しの抽選期限等もあり、来街者数が増加した。しかし、来街時間帯は昼前後から夕刻までの短い時間であるため、目的を定めて来ていると判断され、ついで買い及び衝動買いは少ない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・観光土産店だが、観光客は全く入っていない。公務員関係の客も動いていない。ただ、総選挙で自民党が勝ったことで、建築関係の客が少しお金を使い出している。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・総選挙が終わったばかりで今後への期待感が出ているが、それが消費には全く結びついていない。むしろ、中小企業金融円滑化法の期限が切れることに対して相当不安が出ている。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・売上の減少幅は小さいものの、前年割れの状況が続いている。客単価は前月に引き続き前年を上回っているものの、買上客数の減少が続いている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・来客数は微増で推移しているものの、買上客数は微減にとどまっている。また、客単価も低下傾向にあるため、来客数の伸びほど、売上が伸びない状態が続いている。
百貨店（役員）		お客様の様子	・今月は大寒波の到来で、コート関連がよく売れたほか、暖房用品も好調であり、どの部門も前年比で2けたアップの勢いである。胆振地区での大規模停電の影響もあり、ホームセンターでは乾電池や懐中電灯、ポータブルストーブ等が異常なほど、売상을上げている。	

	スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数は伸びているが、買上点数の伸びない状況が続いている。そのため、なかなか売上も上がらない。
	スーパー（役員）	来客数の動き	・12月の売上は前年比100.1%、商品単価は前年比97.5%となり、11月と比べて12月はやや改善している。しかし、クリスマス催事の好調が数値を押し上げている状況であり、平常日の状況は決して良くない。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・催事商材が前年を上回っているなど、売上は回復傾向にあるものの、依然として買上点数の減少が続いている。特に、たばこの減少が響いている。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・年末の需要商材の販売量が減少した。生活必需品ではないため、余剰に使う金が客にないとみられる。
	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・クリスマス商材の販売動向が前年と比較して鈍い。特に、店頭販売品の動きが鈍く、当日に購入する客が減少している。
	家電量販店（店員）	来客数の動き	・12月後半の大雪にともない寒さも増しており、暖房関連がよく売れた。来客数も伸びており、店に活気が戻っている。
	自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・タイヤ交換の期間であるが、来客数及び客単価の前年比はここ3か月変わらない。
	その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・悪天候が重なり、大幅に来客数が減少している。客単価こそ上昇しているが、全体の売上は前年比で5%のダウンとなった。
	その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・販売量が比較的安定して推移している。
	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・年末にもかかわらず、買物をしている客が少ない。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・毎年のことであるが、平日は天候に左右されるため、来客数はその日によって極端である。一方、クリスマスディナーは例年以上に良かった。全体では前年並みの売上であった。
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・12月単月の売上は前年比107%でやや良いが、内訳をみると、個人客の動きが良くない。3か月前から、全体的な動きは変わらない。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・当地区の空港からの出発客は前年割れの傾向が継続しており、現時点では客の消費マインドは回復していないとみられる。ただし、札幌と当地区を結ぶ路線については、地元コミューター航空会社の撤退もあり、自社単独では伸長している。
	タクシー運転手	来客数の動き	・12月は雪が多く、除雪が間に合わず、年末の繁忙期に市内の道路の渋滞がひどかった。このため、タクシーの注文があっても、断ることが多く、売上は前年よりも減収となった。人出は多かったが、タクシーの売上には天候が災いした。
	タクシー運転手	販売量の動き	・今月は、クリスマスファンタジー等のイベントがあり、また半ばから寒い日が続き、雪も多くなったことから、売上も徐々に伸びてきてはいる。ただし、3か月前と比較すると、約2.5%の減少であったため、全体としては変わらない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・注文数が前年並みであった。観光客からのオーダーは減少したものの、前年は少なかったイベント関係からのオーダーがみられた。
	観光名所（従業員）	来客数の動き	・12月の乗降客数は、24日現在で前年比101.5%となっている。一方、東日本大震災前の2010年との比較では、前々年比99.8%となっており、利用客は例年並みとなっている。
	パチンコ店（役員）	お客様の様子	・北海道は例年のない寒波による大雪で、客の外出の機会が少なくなっている。観光客も同様であり、ホワイトイルミネーションやミュンヘン・クリスマス市などのイベントも来場者数が少ない。
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・変わった動きがみられない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・クリスマス商戦が盛り上がらなかった。例年は月半ばの土日に山があるが、今年は総選挙のせい、厳しい状況であった。客単価も低く、ギフトの数も前年より減った。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・総選挙の影響で歳末商戦の出足は全滅のような状況であった。総選挙後も大雪などの影響で来客数が減少した。

	一般小売店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・年末という特殊な月であり、本来であれば売上の多い月であるが、得意先の飲食店もなかなか景気が戻ってこないという雰囲気であり、例年よりも忘年会等の宴会も少なく、それにともない当社の売上も前年を大きく下回った。	
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・今月は週末ごとに大雪が降ったことにより、来客数が減少したため、売上が減少した。また、総選挙の影響により、ギフト関連の需要が中盤戦から後半にかけて伸び悩んだ。	
	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・天候要因が大きい。総選挙の影響は軽微とみられるものの、進物需要は苦戦した。来店客の買上率は上昇してきているため、購入目的がなければ来店しないという傾向が強くなってきている。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・アプローチしても今は車にお金をかけられないとなかなか商談まで行き付かないケースが多く、乗用車までお金が回ってこない。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・10月からエコカー補助金がなくなり、冷え込みが続いている。売行きもそれに応じて間違いなく悪くなっている。	
	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・受注量の落ち込みが止まらない。	
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・総選挙や異例の大雪、クリスマス連休などが重なったことで、夕食客が減少して前年を下回った。また、忘年会も企業などの団体予約が減った。	
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・忘年会シーズンに総選挙が行われたことで、宴会がキャンセルになった。	
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・ここ数年で最も新規販売数が落ち込んでおり、販売回復の見通しが見えない。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・厳冬期を迎え、気象状況の悪化による欠航回数が増加しており、旅客、車両ともに売上が減少している。	
	悪くなっている	スナック（経営者）	来客数の動き	・12月に総選挙があっただけに、飲食店を始め、繁華街は大変暇だったとみられる。例外なく当店も暇であった。多くの飲食店から同じようなことを聞いている。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・航空機材の縮小化と料金の高止まりにより、道北や道東への本州方面からの入込が増えず、地域全体として国内客が減少している。
企業動向関連 (北海道)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・円安株高基調が景気を下支えしている。消費税増税前の駆け込み需要で新築住宅関連の活況が続いている。
		建設業（従業員）	取引先の様子	・消費税増税に向けて、駆け込みの不動産取得や住宅建設にともない、大工や内装、設備工事の労務者が不足している。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・引き続き単価は下落傾向であるが、それを上回る受注量の増加が、下期に入り顕著となっている。
		コピーサービス業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・受注数の拡大かつ単価の上昇がみられる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・各業界とも政権交代への期待感が強い。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年に比べて荷動きが悪い。
		食料品製造業（団体役員）	それ以外	・12月の前半は総選挙期間でもあり、贈答用品及び飲食店等の来客数等に厳しさがみられたものの、後半は政局の安定と景気動向への期待感から前年より好転した。12月としては例年より寒気が強く、大雪となったことから、冬のイベント等の開催に期待感が持てる。
		食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・販売量は3か月前と変わらず、特に増減なく推移している。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・東北海道は夏季の日照時間が国内でも長い地域で、冬季も雪が比較的少ない。また、遊休地も多いことから、電力不足問題を背景とした売電用の太陽光発電設備の架台、ソーラーパネルの輸送が継続している。

	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・年末を迎えたことでの季節要因もあるが、荷動きは落ち着いている。前年比、前月比とも、大きな変化はみられない。
	金融業（企画担当）	それ以外	・設備投資は医療福祉施設の新増設やメガソーラーの建設が活発である。住宅投資も貸家が増加している。震災復興で技能工が流出していることもあり、工期の遅れも出ている。個人消費は、大雪の影響で全般的に客足が鈍っている。
	司法書士	取引先の様子	・建設業や宅地建物取引業など、取引先の様子から、一時回復傾向に転じたが、また以前の状況に戻っているようにみられる。
	司法書士	取引先の様子	・12月の総選挙で25年度の予算編成などが遅れている。通常国会も1月末の開会では、早い時期の景気回復に期待が持てない。株式市場だけが潤ったところで一般の人には関係がなく、節電だけではなく、節約も日常的になってきていることから、不動産取引も活発にはならない。
	やや悪くなっている	司法書士	取引先の様子
	悪くなっている	その他非製造業 [鋼材卸売] (役員)	受注量や販売量の動き
	悪くなっている	その他非製造業 [鋼材卸売] (役員)	受注量や販売量の動き
雇用 関連	良くなっている	-	-
(北海道)	やや良くなっている	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・コールセンターからの求人が増え、さらに一般企業からの営業職の求人、IT関連の求人が増えている。企業側では、今まで、業績低迷を背景に求人を抑えていたが、ここにきて業績拡大に向けた動きが出てきている。
変わらない	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・新規求人数は前年比で9.5%増加し、34か月連続で前年を上回った。また、月間有効求人数も前年比で14.4%増加し、34か月連続で前年を上回った。
	求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・年末年始の繁忙期に向けた短期求人が多くみられたが、一過性のものであり、状況は大きく変わっていない。
	求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・求人広告件数は前年と比べて若干多いものの、2~3か月前と比べると急激な減少傾向がうかがえる。
	求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・例年よりも寒くて早い冬の影響で、一部の業界に活気がある。本来1~2月がピークとなる除雪、排雪作業が前倒しとなり、建設業や運輸業等が忙しくなっている。また、厳しい寒さと大雪の影響で、冬物衣料や雪かき商材等を中心に百貨店や小売店で活気があり、年末商戦と重なったことで、街や店舗がにぎわっている。冬の観光は来年2月の雪まつりがピークであるが、国内観光客のほか、台湾、タイなどの海外からの需要があり、宿泊業も順調に推移している。
	求人情報誌製作会社(編集者)	周辺企業の様子	・政権が代わり、景気浮揚への期待感を感じるが、中国や韓国等からの観光客減少の懸念が払しょくされない。具体的な政策が見えてくるまでは不透明感が強い。
	新聞社[求人広告](担当者)	求人数の動き	・募集広告の売上が、今月も前年を上回った。管内のJA農畜産物取扱高が過去最高を記録したほか、関連施設の建設等もあり、その経済波及効果が裾野にまで広がっている。
	職業安定所(職員)	それ以外	・11月の管内の有効求人倍率は0.62倍と前年を0.12ポイント上回り、3か月連続して0.6倍台と高い水準となっている。
	職業安定所(職員)	雇用形態の様子	・11月の新規求人数は前年比で18.1%の増加となった。新規求職者数は前年比で8.9%の減少となった。また、月間有効求人倍率は0.74倍となり、前年の0.58倍を0.16ポイント上回った。一方、新規求人数のうち、正社員求人の占める割合は46.5%と高く、求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
やや悪くなっている	職業安定所(職員)	周辺企業の様子	・年末を控えて従業員の整理解雇や事業廃止の動きがみられるのは例年のことではあるが、前年まではどうか持ちこたえてきたものの、今年是对処できなかったという事業者が各業界でみられ、より厳しい状況になっていることがうかがえる。

悪く なっている	-	-	-
-------------	---	---	---